

志功に魅せられて

元英会話教室講師テラーさん(米国)

10年ぶり「思い出の青森」に

八甲田で絵画創作

棟方志功に魅せられた元青森市の英会話教室講師トレイ・テラーさん(画ミ)米国アラバマ州出身が10年ぶりに来日、先ごろ、八甲田の谷地温泉十和田湖町にこもって絵画の創作に励んだ。「青森の思い出は特別だった。特に八甲田は私にとってスピリチュアル(霊的)な場所。どうしても青森に帰って絵を描きたかった」と話すテラーさんは、ひよんなことから三日から青森市の画廊で個展を開くことになった。(政経部・河田喜昭記者)

テラーさんは一九八〇年、青森市で英会話の講師をしていた。時、千刈小学校に通って、描いているうちに、その七一九〇年、青森市で英会話のリリスさんが当り、一緒に遊びで絵を、魅力に取りつかれた。特

に棟方志功の作品に心を奪われた。その後、テラーさんは郷里のアラバマ州に帰って、生化学の修士号を取ったのち、米国内の大学で薬の研究者となった。しかし、その仕事は「とても面白かったが、魂に響くものではなかった」ため、再び青森に帰りたいと願い始める。大学を辞めることに家族も周囲も反対した。かつての同僚で再来日の手配をした英会話「レッツ」代表の上林恵美子さんも「相談を受けた私自身も二足のわらじ」を履く「天国に近い場所」

「一生のうち最も幸福な日々はこれまでも、天国に近い場所だっ」とテラーさんの答えは「ぼくはこれまでずっと、天国に近い場所だっ」とテラーさん。夜に沈む月を見て「シンブルで奥の深い日本文化を」と理解できた気がした。来日してすぐ、二月十日から四月八日まで、雪の谷地温泉にこもり、静寂の中で一気に六十点の忠秋さん(金)は「集中す

研究者から転身

青森 3月8日 「祈り」の作品で個展

「祈り」の作品で個展。描いた作品は祈る儂りよの絵が多々、「志功に似ている」とよく言われた。何に祈っているのかは「自分でも分からない」が、ゴッド(神)というより「すべてのものに」対する祈りだと言っ。ひよんなきっかけより日本の味わいを出したくて和紙や米袋を使ってもみた。画材を求めて入った青森市新町二丁目「画廊」で、オーナーの大嶋じゅん

谷地温泉で創作に励むテラーさん



テラーさんの作品「花と僧」

